

列する半球状の顆粒によって覆われる。

ハンガリー⁸⁾から知られる。日本新産。

引用文献

1) BRUNNTHALER, J. 1915. Protococcales. In A. Pascher [ed.] Die Süßwasser-Flora Deutschlands, Österreichs und der Schweiz. 5: 52-205. Gustav Fischer, Jena.

2) PRESCOTT, G. W. 1951. Algae of the Western Great Lakes Area. Cranbrook Institute of Science, Michigan.

3) CLARENCE, E. T. and CELESTE, W. T. 1971. The Algae of Western Lake Erie. Bull. Ohio Biol. Survey. ser. 2. 4: 1-187.

4) HORTOBÁGYI, T. 1969. Phytoplankton organisms from three reservoirs on the Jamuna River, India. Stud. Biol. Hungarica. 8: 1-180.

5) 山岸高旺 1968. 苗場山水鮮湿原の藻類, 日大農獣医教養紀要 3: 17-33.

6) 広瀬弘幸, 山岸高旺 1977. 日本淡水藻図鑑, 内

田老鶴園新社, 東京.

7) 水野寿彦 1964. 日本淡水 プランクトン図鑑, 保育社, 大阪.

8) HORTOBÁGYI, T. 1962. Algen aus den Fischteichen von Buzsák. IV. Nova Hedwigia. 4: 21-53.

9) MARGALEF, R. 1956. Algas de agua dulce del moroeste de Espana. P. Inst. Biol. Apl. 22: 43-152.

10) YAMAGISHI, T. 1975. The plankton Algae from Papua New Guinea. The Botanical Expedition to Papua New Guinea, The National Science Museum, Tokyo.

11) VALIA, P. et ALLORGE, P. 1931. Hétérocontes, Euchlorophycées et Galice. Matériaux pour la Flora des Algues d'eau douce de la Péninsule Ibérique I. Rev. Algologique. 5: 327-382.

12) YAMAGISHI, T. and HIRANO, M. 1973. Some freshwater algae from Cambodia. Contrib. Biol. Lab. Kyoto Univ. 24: 61-85.

440 豊橋市宮本町字国隠 20-8 愛知県公害調査センタ東三河支所

◎第13回・国際植物学会 (XIII International Botanical Congress) の案内

第13回・国際植物学会議が1981年(昭56年)8月21日~28にわたってシドニー(オーストラリア)で開催されます。この第10部会—海・淡水植物学の chairman であるウマズリー教授(アデレード大学植物学教室)から下記のような案内が当学会にきています。

○Section 10. Marine and Freshwater Botany.

部会は全期間中開催の予定。海草, マングローブ, および藻類学のあらゆるテーマについて, シンポジウムと一般講演が行われる。提出された論文について, 口頭発表は選択されるが, 残りは要旨か全文が出版される予定。また展示もできる。

下記の Topics と Field trips が計画中であるが, これらおよびそれ以外のものについて, 意見や提案があったら申し出てほしい。

○Topics (題目)

- 1) 微細構造と生化学的研究を含む, 藻類の形態と分類についての新知見
- 2) 藻類の有性生殖
- 3) 藻類群落の構造と動態
- 4) 熱帯サンゴ礁での藻類の役割
- 5) 南極藻類学
- 6) 海草 (Seagrasses) とその生物学
- 7) 藻類・海草・マングローブ群落の生産力

8) 南半球に力点を置いた藻類の生物地理学

9) 南半球での藻類の利用

10) 珪藻の分類と生物学

11) ラン藻類の分類学的概念

12) 化石藻類

以上の題目は重ならないよう計画されているが, 多少は重なるかも知れない。しかし, 重なっても希望者の大多数は参加できるよう計画中である。

○Field trips (見学旅行)

- 1) (会期前) 海草とマングローブを含む, 大堡礁(海岸に平行に走るサンゴ礁)であるヘロン島への旅行(7日間)
- 2) (会期後) オーストラリア固有海産分類群のためのメルボルンとアデレードへの海岸めぐり(8日間)
- 3) 淡水生育地へのシドニーからメルボルンへの旅行(6日)(会期前旅行の予定)
- 4) 期間中の1日旅行
 - (a) C. S. I. R. O の Cronulla にある水産・海洋学部の見学, 海草群落見学のためのボート旅行.
 - (b) マングローブ, 海草および藻類群落のための Botany Bay への旅行.
 - (c) 海食台 (rock platform) への旅行.
 - (d) 淡水生育地への1乃至数回の旅行.

およばない0.11という値にまで減少している。

今回の分析試料は、一枚のノリ網から経時的に摘採したものである。同一網上の個体群内では、かなり斉一な生理活動が営なまれている(大房ら, 1978)ことから、これら藻体群は、一日の間に上級品に相等する質から下級品までの大幅な変動を示していることが明らかとなった。

海苔質良否の判定には、他の多くの因子も対象にされている。しかし、光合成色素総量・全窒素量・全窒素量/全炭水化物量の値は、いずれも海苔質と高い相関を示すものであり、官能による判定を裏づける重要な因子でもある。

乾海苔の質は必ずしも原藻の良否ばかりでなく、抄製・乾燥時の条件や技術によっても左右される。しかし、加工技術によって原藻の劣悪さが改善されることはなく、良質の乾海苔を作るためには、まず、良い原藻を手に入れる必要がある。

かかる見地から、以上の結果は、良質の乾海苔を作るためには、まず、原藻を早朝に摘採する必要があることを立証するものと考えられた。

引用文献

- 荒木 繁・大房 剛・斎藤宗勝・桜井武磨 1977. *Porphyra* 中の 3,6 anhydro-galactose 含量と乾海苔の品質. 藻類 25: 19-23.
- MIURA, A. 1977. Taxonomic studies of *Porphyra* species cultivated in Japan. Dr. Sc. thesis, Tokyo Kyoiku Univ.
- 野田宏行 1971a. 海藻の生化学的研究 II. あさくさのりの品質と一般成分との関係. 日水誌 37: 30-37.

- , 1971b. 海藻の生化学的研究 III. あさくさのりの品質と無機成分との関係. 日水誌 37: 35-39.
- , 1971c. 海藻の生化学的研究 IV. 集殖のりの化学成分, 品質と環境との関係. 日水誌 37: 391-396.
- NODA, H. and Y. HORIGUCHI 1975a. Studies on the flavor substances of "Nori", the dried laver *Porphyra tenera* -I. Dimethyl sulfid and dimethyl- β -propiotetin. Bull. Japan. Soc. Sci. Fish. 41: 481-486.
- NODA, H., Y. HORIGUCHI and S. ARAKI 1975b. Studies on the flavor substances of "Nori", the dried laver *Porphyra* spp. -II. Free amino acids and 5'-nucleotides. Bull. Japan. Soc. Sci. Fish. 41: 1299-1303.
- 大房 剛・荒木 繁・桜井武磨・斎藤宗勝 1977a. アマノリの日周変化に関する生理的研究-I. 室内培養下の藻体にみられた細胞の大きさ・生理活性および光合成色素量について. 日水誌 43: 245-249.
- ・——・——・—— 1977b. アマノリの日周変化に関する生理的研究-II. 室内培養下の藻体にみられた生長および 2・3 の成分含有量について. 日水誌 43: 251-254.
- ・——・——・——・切田正憲・山下輝昌 1978. 養殖ナラワスサビノリにみられた細胞の大きさ・生理活性および 2・3 の成分量の日変化. 日水誌 44: 299-303.
- 斎藤宗勝・大房 剛 1974. 乾海苔に含まれる光合成色素の簡易定量法. 藻類 22: 130-133.
- 斎藤宗勝・荒木 繁・桜井武磨・大房 剛 1975. 乾海苔における光合成色素量および全窒素・全遊離アミノ酸・全遊離糖含量の時期的変動と産地間の相違. 日水誌 41: 365-370.

大房・荒木・桜井: 143 大田区大森東 5-2-12, 山本海苔研究所; 斎藤: 036 弘前市豊原 1-2-1, 東北女子大学

◎ シンポジウム "The shore environment: methods and ecosystem" の案内.

本学会の会員である W. F. Farnham 博士から、上記のシンポジウムへの誘いの手紙が本学会宛送られてきています。このシンポジウムは目下、1979年4月2~6日に行われる予定であり、Proceedings も発刊されます。ヨーロッパおよび北米から演者を募っているが、日本からも参加してほしいとのことです。オルガナイザーは、J. Price (British Museum, Natural History), D. Irvine (Polytechnic of North London), W. Farnham (Portsmouth Polytechnic) の各氏。参加費は £15. なお、詳細については、Dr. W. Farnham, Marine Laboratory, Portsmouth Polytechnic, Ferry Road, Hayling Island, Hants PO11 0DG 宛に連絡下さい。